

公益財団法人 鉄鋼環境基金

第 43 回 (2022 年度) 研究助成事業 応募状況 (速報)

2022 年度の研究助成事業の公募は、4 月 1 日から 5 月 31 日までの募集期間で行った。地球環境分野に重点を置くという方針が反映された応募結果となったが、地球環境分野以外の応募数が大幅に減少してしまった。(昨年の採択件数が少なかった影響もあると思うが、減少理由調査・対策を実施する)

今年度の応募状況 (速報) は以下の通りである。

【応募状況全般】(カッコ内は過去 4 年の数字)

- ① 応募総数は 115 件 ( ' 18 : 146、' 19 : 161、' 20 : 179、' 21 : 158) であり、昨年度より 43 件、27%減少した。うち新規テーマは 96 件 ( ' 21 : 123 件)、継続は 19 件 ( ' 21 : 35 件) の応募であった。
- ② 大学からの応募は 103 件 ( ' 18 : 116、' 19 : 130、' 20 : 141、' 21 : 128) で大きく減少。
- ③ 高専からの応募は 7 件 ( ' 18 : 12、' 19 : 12、' 20 : 13、' 21 : 8) でやや減少。
- ④ 研究所・団体等からの応募は 5 件 ( ' 18 : 18、' 19 : 19、' 20 : 25、' 21 : 22) で大きく減少。
- ⑤ 若手研究の応募は 33 件・全体の 29%。件数はやや減少したが比率的には例年並み。  
( ' 18 : 42・28%、' 19 : 35・22%、' 20 : 42・23%、' 21 : 42・27%)
- ⑥ 初めての応募者は 27 人・全体の 23%。件数は大きく減少したが比率的には例年並み。  
( ' 18 : 41・28%、' 19 : 31・19%、' 20 : 41・23%、' 21 : 42・27%)

【応募件数・助成件数の推移】

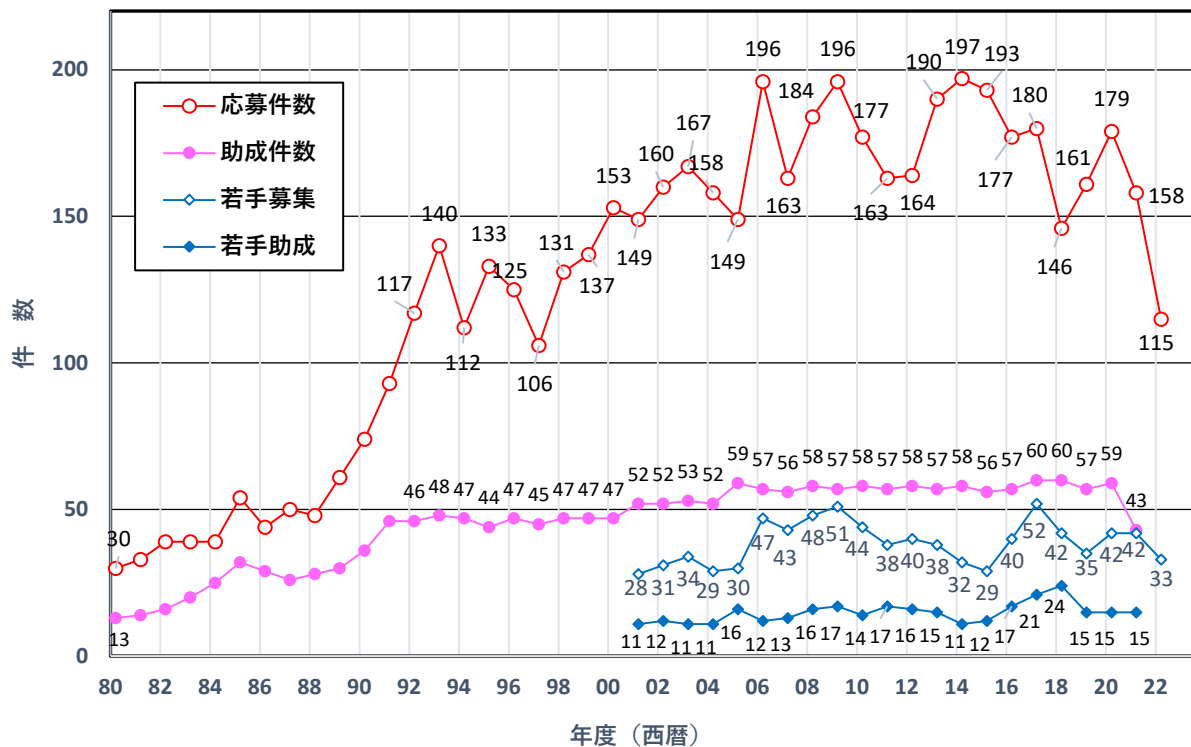


図 応募件数・助成件数の推移

【分野別応募件数】

- ①地球環境分野は、近年増加傾向の中で昨年の 39 件から 58 件と約 1.5 倍に増加した。
- ②副産物分野は、昨年応募が多かったが昨年の 42 件から 19 件へ激減。
- ③大気分野は、近年減少傾向の中で昨年の 31 件から 17 件へ更に大幅減。
- ④土壌水質分野は、近年減少傾向の中で昨年の 45 件から 20 件へ更に大幅減。

分類・課題	2019年度応募件数			2020年度応募件数			2021年度応募件数			2022年度応募件数		
	一般	若手	合計	一般	若手	合計	一般	若手	合計	一般	若手	合計
<b>(1)地球環境</b>	<b>22</b>	<b>9</b>	<b>31</b>	<b>28</b>	<b>16</b>	<b>44</b>	<b>27</b>	<b>12</b>	<b>39</b>	<b>39</b>	<b>19</b>	<b>58</b>
①抜本的なCO2排出削減	9	3	12	6	2	8	8	2	10	5	3	8
②カーボンニュートラル基盤技術	7	2	9	16	7	23	15	7	22	23	8	31
③未利用エネルギー有効活用	4	4	8	5	6	11	2	1	3	3	3	6
④地球温暖化に対する適応、循環型社会構築	2	0	2	1	1	2	2	1	3	7	4	11
⑤環境汚染物質の発生抑制技術	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	2
<b>(2)副産物</b>	<b>27</b>	<b>6</b>	<b>33</b>	<b>35</b>	<b>2</b>	<b>37</b>	<b>33</b>	<b>9</b>	<b>42</b>	<b>15</b>	<b>4</b>	<b>19</b>
①スラッグの利用・高付加価値化	25	6	31	31	2	33	32	9	41	14	4	18
②副産物の減量・減容化、再利用	2	0	2	3	0	3	1	0	1	1	0	1
③水銀汚染廃棄物の効率的処理	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④他産業副産物・廃棄物の有効利用	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
<b>(3)大気</b>	<b>29</b>	<b>5</b>	<b>34</b>	<b>26</b>	<b>8</b>	<b>34</b>	<b>24</b>	<b>7</b>	<b>31</b>	<b>12</b>	<b>5</b>	<b>17</b>
①PM2.5対策、測定技術	19	5	24	23	7	30	19	7	26	8	4	12
②省エネ、低コスト、高効率化	6	0	6	2	0	2	3	0	3	2	1	3
③水銀等重金属の低減	4	0	4	1	1	2	2	0	2	2	0	2
<b>(4)土壌水質</b>	<b>48</b>	<b>15</b>	<b>63</b>	<b>43</b>	<b>14</b>	<b>57</b>	<b>32</b>	<b>13</b>	<b>45</b>	<b>15</b>	<b>5</b>	<b>20</b>
①水処理高効率化、重金属等の除去・回収	26	11	37	25	11	36	14	8	22	8	2	10
②土壌・地下水汚染の浄化・測定技術	14	2	16	11	3	14	6	3	9	5	1	6
③閉鎖性海域の環境対策	8	2	10	7	0	7	12	2	14	2	2	4
<b>(6)その他</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>0</b>	<b>1</b>
<b>合計</b>	<b>126</b>	<b>35</b>	<b>161</b>	<b>132</b>	<b>40</b>	<b>172</b>	<b>116</b>	<b>42</b>	<b>158</b>	<b>82</b>	<b>33</b>	<b>115</b>
下線:特に関心のある技術課題												

以上